

第二回 関東共同土建 安全大会議事録

日時 2015/6/27 19時より

場所 本社会議室

～ 前回大会の目標の達成について ～

○前回大会における目標「合図、声かけによる事故の防止」について
達成状況についての報告

- ・会社は全ての作業員のヘルメットに合図をするための笛を装着した

▽作業員側意見

- ・意識して手を上げる等の行為を行うようにした

▽OP 側意見

- ・重機オペが気付いたことを確認した上で通行してくれればよいが、一方的に手をあげて通行するだけでは気付かないこともあり何かあっても間に合わない。
- ・せっかく笛があるのだから確実に分かるよう笛を使って欲しい

▽作業員側意見

- ・笛を持っていても吹かなかったり、手をあげたから「気付いただろう」という意識で済ませてしまっている
- ・何回も笛を吹くとオペさんに迷惑がかかってしまうと思っている

▽OP 側意見

- ・事故があった時に罰を受けるのは怪我をした作業員ではなく怪我をさせた重機オペである。迷惑だのうるさいとか言う次元ではないのでもっと笛を使って欲しい

▽総論

- ・この結果では、前月の安全目標が達成されているとは言えない
- ・皆の意識がはっきりと変わるまで、オペたちは注意し続け、職長は注意喚起を教育し、土工仲間たちも気づいたら注意するよう心がけ、また続けてほしい
- ・これは短期的な目標ではなく、建設業界において永遠の目標であることを忘れないで欲しい

～ 今月・来月の諸注意 ～

▽熱中症に注意。職長は細かく水分補給休憩を与えるように

▽戦力不足で皆に無理をさせないよう余裕をもった人員配置を

▽怒鳴りつける、怒ることは決して人の教育にはならない。

「怒るより叱る」「怒鳴るより諭す」を心がけて、人の指導にあたる事。

～ 今回のテーマ ～

「地山崩壊に危険性について」

▽部長よりテーマの説明

どういう時に地山が崩れるのか、皆に理解してほしい

- ・簡易山止めした後、雨が降ると崩壊することはよくある
- ・雨がふった時後は、地すべりが起きやすくなる
- ・雨を含んだ土砂が崩れるときは1立米あたり1.5トンもの重さがある
- ・土に対する知識が無い
- ・雨以外にも震動があると崩れやすくなる
- ・同じく何かを上に乗せるだけでも崩れやすくなる。矢板やパイプ、重機などが上に載ったときにも崩れる

▽現場で対応すべきこと

- ・職長は現場を十分にチェックし、何が危険なのかを把握しなければならない
- ・職長以外でも地山の確認、特にクラックがあったらすぐに報告を入れてほしい。
- ・土工さんは特に近くで作業することがあるから気づきやすい。クラックは崩れる前兆である

▽社長の見解

- ・矢板面を出しておいて、矢板を入れないまま作業を終える日があるのはルール違反
- ・当日中に矢板を入れきれないほどの矢板面が作られそうならオペさんに相談して、その日はもう矢板面を増やさないようにする等の対応が必要

▽部長よりの指導

- ・危険な状況を察知したら、元請さんや監督の指示でもその場で作業をすることは断るよう。事故が起きてからでは遅い
- ・また、土よりも砂の方が危険度が高いのでより注意すること
- ・砂は水によってえぐれ易いので、雨の後は確実に崩れると思っておいた方がよい
- ・崩れそうな危険なところは、むしろ崩してしまい、危険を取り除いた上で作業すべき

▽総論

大切なのは、危険を感じたときは報告し、職長・オペ、土工がコミュニケーションをとって情報を共有し、自分と仲間を危険にさらさないことである

○今月の安全目標「地山の確認」